

令和3年2月1日

## 令和2年度 教育課程編成委員会

大阪市立デザイン教育研究所

開催日時

令和3年2月1日（研究所展覧会期間）

教育課程編成委員

常翔学園大阪工業大学工学部 特任教授

大阪商工会議所南支部副支部長

大阪市立デザイン教育研究所 所長

大阪市立デザイン教育研究所 専任講師〔司会〕

### 教育課程編成委員会 次第

#### 1 展覧会視察

15:10～15:20

大阪商工会議所西支部と取り組む「駅前ぶらりある区」プロジェクトの展示を視察。

15:20～15:30

課題研究の展示を視察

15:30～15:40

春期セミナーを視察

15:40～15:50（所長室へ移動）

#### 2 今年度の報告

15:50～16:10

教育の全体像を別紙（時間割）より説明

カリキュラム構成は本校の特色であるプロジェクト（プロジェクトベース・チームベースで社会の要求に対応し、デザインで問題解決する）を中心に組み立てる。ベースになる力の養成に注意を払い、その上にチームで取り組める力をつける。

新たな試み

新型コロナウイルス感染防止対策【1階とオンライン展示】

評判のプロジェクト

大阪大学グローバルビレッジつくも台

- ・パナソニックホームズ
- ・中銀インテグレーション
- ・共和メディカル

今里・神路（大阪商工会議所東支部様のプロジェクト）【2階に展示】

入学前教育の重点を説明

- ・工芸高校での出前授業実施

今年度の重点を説明

- ・デ研展におけるオンラインの活用
- ・世代交代

### 3 委員からのご意見

16:10～16:40

企業との連携プロジェクトについて

高校との連携プロジェクト（高校との接続性）について

その他のご意見

D委員

- 冬のデ研展の展示を見て▲：プロジェクトがいろいろな分野にまたがって目線の違いを持っていながら、ある程度の枠組みもあって良い。
- はじめに枠ありきで決めてかかるよりも独創性を重視すると良い。
- 一度死んだ技術も生き返ることがあるので、いろいろな引出しを持っておくと良い。
- 冬のデ研展のワークショップを見て：生野ものづくり百景の取り組みは評価できるも、その技術がどう使えるか考える等、さらにその一步先を見通す力を養うと良い。
- 自分のところはサンプル屋であるが、標本とサンプルは異なる。標本は見たままであるが、サンプルはおいしそうに見えるためのデフォルメが必要になる。中に入りたくなる、また来たくなる、そういう付加価値を生み出すアイデアと視点が重要だ。
- まずはアイデアから入って、それをどうつなげていくかと姿勢が重要だ。
- 自分のインスピレーションを次にどう生かすかが重要だ。
- プロジェクションマッピングのようなものかもしれないが、2Dと3Dのコラボ（例えば平面から立体が飛び出すようなものとか）がこれからのものづくり（広告）では鍵になるだろう。
- 映像に嗅覚をどう取り組むかが鍵になる。おいしそうな匂いとか。
- ▲学校名が学校とわかりにくいので、もっと校名を広める取り組みを強化すべき。  
★
- ▲★商工会議所のプロジェクトで作った作品に学校名を入れるとか、学校名でなくてもすぐにわかってもらえるような統一した学校のオリジナルキャラクターをつくって載せるとか。
- ★缶バッジを作成して学生が着用するとか。

E委員

学校関係者評価委員会の審議を踏まえて

- 工芸高校とデ研の5年継続教育に関する包括連携協定を急ぐべきである。
- 入学希望者を増やすために入試内容を変える予定。
- 人事を含む教育課程にいわゆる「府への移管問題」を考慮しなければならない。